

場面緘黙当事者・経験者と対照群の精神・行動の問題に 社交不安, 発話, 群が与える影響

田中佑里恵

(京都大学)

キーワード: 場面緘黙, 精神・行動の問題, 階層的重帰帰分析

Influence of social anxiety, speech, and groups on mental and behavioral problems in parties and experienced people with selective mutism and people in the control group

Yurie TANAKA

(Kyoto Univ.)

Key Words: Selective mutism, Mental and behavioral problems, Hierarchical multiple regression analysis

目 的

場面緘黙(選択性緘黙)とは, 他の状況で話しているにも関わらず, 話すことが期待されている特定の社会的状況において話すことが一貫してできない状態で, DSM-5 にて不安症に分類される。本研究は, 場面緘黙当事者, 場面緘黙経験者, 対照群の精神・行動の問題に, 発話の程度, 場面緘黙と関連の強い社交不安の程度, 群が与える影響を明らかにする。

方 法

対象者 場面緘黙当事者 5 名 (男性 2 名, 女性 3 名; 平均年齢 20.80 歳, $SD=2.95$, 18-25 歳), 場面緘黙経験者 21 名 (男性 3 名, 女性 17 名, その他 1 名; 平均年齢 21.29 歳, $SD=2.12$, 18-25 歳), 対照群 (大学生) 9 名 (男性 3 名, 女性 6 名; 平均年齢 19.44 歳, $SD=1.59$, 18-23 歳) を分析対象とした。
質問項目 精神・行動の問題: ASR (船曳・村井, 2015) 大項目 IX 尺度 I-IX123 項目 0-2 評定, 社交不安: SFNE (笹川他, 2004) 12 項目 1-5, 発話: SMQ-R (かんもくネット, 2011) 改変 16 項目 0-3 兼 SMQ-J (角田他, 2022) 改変 15 項目 0-3 を用いた。
倫理的配慮 京都大学大学院人間・環境学研究科人間情報研究・動物実験倫理委員会の承認を得た (承認番号 30-H-6)。

結 果

全体・群別の記述統計量と信頼性係数および場面緘黙経験者群と対照群間でのウィルコクソンの順位和検定 (Table 1) 各尺度の α 係数は概ね高かった。当事者群は検定に十分でない人数のため, 経験者群と対照群間で検定を行い効果量 r を算出した。不安/抑うつは経験者群 ($W=143.5, p<.05, r=.41$), 侵入性は対照群 ($W=39.5, p<.01, r=.48$) が有意に高かった。
階層的重帰帰分析 ASR 各尺度を従属変数として階層的重帰帰分析を行った。独立変数は, Model 1 では対照群を基準とした当事者群, 経験者群のダミー変数とし, Model 2 では加えて SFNE, Model 3 では加えて SMQ-R 合計または SMQ-J 合計とした。各モデルで標準偏回帰係数 β , 決定係数 R^2 , Model 1 と 2, 2 と 3 の間では R^2 の増分 ΔR^2 と R^2 の有意差を算出した。Model 3 の結果を取り上げると, SMQ-R 合計を用いた場合で各尺度に有意に影響していた独立変数は次の通りであった。全問題は SFNE ($\beta=.52, p<.01$), SMQ-R 合計 ($\beta=-.39, p$

$<.05$), 内向は SFNE ($\beta=.48, p<.01$), SMQ-R 合計 ($\beta=-.45, p<.01$), 外向は当事者群 ($\beta=-.56, p<.01$), 経験者群 ($\beta=-.43, p<.05$), SFNE ($\beta=.54, p<.01$), SMQ-R 合計 ($\beta=-.31, p<.05$), 不安/抑うつは SFNE ($\beta=.60, p<.001$), SMQ-R 合計 ($\beta=-.36, p<.01$), ひきこもりは SMQ-R 合計 ($\beta=-.55, p<.001$), 身体愁訴は有意な独立変数なし, 思考の問題は有意な独立変数なし, 注意の問題は SFNE ($\beta=.40, p<.05$), 攻撃的行動は当事者群 ($\beta=-.58, p<.01$), SFNE ($\beta=.50, p<.01$), SMQ-R 合計 ($\beta=-.44, p<.01$), 規則違反的行動は有意な独立変数なし, 侵入性は当事者群 ($\beta=-.44, p<.05$), 経験者群 ($\beta=-.82, p<.001$), SFNE ($\beta=.51, p<.01$), その他の問題は SFNE ($\beta=.50, p<.01$), SMQ-R 合計 ($\beta=-.35, p<.05$) であった。 R^2 は全問題.43, 内向.50, 外向.39, 不安/抑うつ.60, ひきこもり.43, 身体愁訴.20, 思考の問題.10, 注意の問題.24, 攻撃的行動.49, 規則違反的行動.20, 侵入性.41, その他の問題.39 であった。SMQ-J 合計を用いた場合は, SMQ-R 合計を SMQ-J 合計として, 外向への SMQ-J 合計の有意な影響がないこと以外は有意な独立変数は同一で, ひきこもりへの SMQ-J 合計および ΔR^2 が $p<.01$ であったこと以外は有意水準は同一であり, β および R^2 はいずれも同程度であった。

考 察

社交不安の高さは多くの問題に, 発話の抑制は複数の問題に影響し, 特に治療・支援が必要である。侵入性は経験者, 当事者が, 攻撃性は当事者が, 対照群よりも低く, 行動抑制の表れ等が示唆される。不安/抑うつは R^2 が高く社交不安が多く影響し, 発話も影響する。身体愁訴, 思考の問題, 規則違反的行動は社交不安, 発話, 群以外の要因が影響する。

主な引用文献

船曳 康子・村井 俊哉 (2015). ASEBA 行動チェックリスト (18~59 歳成人用) の標準値作成の試み 臨床精神医学, 44 (8), 1135-1141. 角田 圭子他 (2022). Selective Mutism Questionnaire 日本版 (SMQ-J) の信頼性と妥当性の検討 不安症研究, 14 (1), 47-55. 笹川 智子他 (2004). 他者からの否定的評価に対する社会的不安測定尺度 (FNE) 短縮版作成の試み——項目反応理論による検討—— 行動療法研究, 30 (2), 87-98.

Table 1

全体・群別の記述統計量と信頼性係数および場面緘黙経験者群と対照群間でのウィルコクソンの順位和検定結果

	全体 (N=35)			場面緘黙当事者群 (n=5)			場面緘黙経験者群 (n=21)			対照群 (n=9)			経験者群-対照群間		
	Mean	(SD)	Median	Mean	(SD)	Median	Mean	(SD)	Median	Mean	(SD)	Median	α	W	r
SFNE	47.57	(8.92)	50	47.80	(5.12)	50	50.71	(7.40)	52	40.11	(9.97)	43	.90	154.5	.51
SMQ-R 合計	23.89	(9.51)	23	16.40	(4.98)	15	25.43	(9.59)	25	24.44	(10.01)	25	.92	93.0	.01
SMQ-J 合計	22.63	(8.80)	22	16.00	(5.00)	15	24.14	(8.80)	25	22.78	(9.20)	23	.91	97.0	.02
ASR	79.83	(37.03)	78	66.00	(32.04)	51	87.43	(32.77)	82	69.78	(47.40)	59	.97	125.0	.25
全問題	33.86	(16.18)	31	31.20	(12.56)	26	38.14	(14.85)	39	25.33	(18.65)	25	.95	136.5	.35
内向	12.89	(8.15)	13	8.20	(6.76)	8	13.05	(5.94)	13	15.11	(12.33)	12	.88	101.5	.05
外向	18.89	(8.36)	20	17.60	(5.27)	17	21.62	(7.29)	22	13.22	(9.68)	14	.93	143.5 *	.41
II ひきこもり	8.91	(4.63)	10	7.80	(3.96)	7	10.14	(4.28)	10	6.67	(5.20)	6	.88	133.5	.32
III 身体愁訴	6.06	(5.29)	4	5.80	(4.49)	4	6.38	(5.60)	3	5.44	(5.46)	4	.88	109.5	.12
IV 思考の問題	4.14	(3.81)	4	3.20	(3.63)	2	4.57	(4.19)	4	3.67	(3.16)	3	.81	106.5	.10
V 注意の問題	13.00	(7.32)	12	10.20	(6.14)	11	14.38	(6.64)	14	11.33	(9.25)	6	.90	122.5	.23
VI 攻撃的行動	7.34	(4.34)	8	4.00	(3.39)	3	8.05	(3.61)	8	7.56	(5.77)	6	.81	112.0	.14
VII 規則違反的行動	3.49	(3.32)	3	2.60	(3.13)	1	3.52	(2.16)	3	3.89	(5.44)	1	.75	121.0	.22
VIII 侵入性	2.06	(2.15)	1	1.60	(1.52)	1	1.48	(1.99)	1	3.67	(2.18)	4	.79	39.5 **	.48
IX その他の問題	15.94	(6.34)	15	13.20	(5.40)	13	17.29	(5.91)	16	14.33	(7.53)	13	.95	125.0	.25

* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$